



# 高知大学における 社会人学び直しの 取組み



国立大学法人高知大学  
副学長（地域連携担当）  
受田 浩之



# 高知大学における社会人学び直しの取組み

- 高知の概要
- 高知大学土佐フードビジネスクリエイター  
（土佐FBC）人材創出事業 第Ⅰ期・第Ⅱ期（H20-H29）
- 高知大学土佐フードビジネスクリエイター  
（土佐FBC）人材創出事業 第Ⅲ期（H30-H34）
- 高知大学こうち観光カレッジ
- 高知大学出前公開講座
- シニアの生きがいづくりへの参画



## 高知大学の概要

- 高知県唯一の国立総合大学 1949年設立
  - 6学部(人文社会、教育、理工、医、農林海洋、地域協働) + 土佐さきがけP
- 学部学生数 4,949 名 大学院生数(1研究科) 498 名
- 教職員数 1,851 名 (平成29年5月現在) 計 7,298 名
- 世界大学ランキング(Times Higher Education 2018)  
601-800位 (国内13-29位)
- 地域課題の解決を高知県と共に行う全学的な教育研究  
組織体制を構築



協口宏 学長



## 高知県の概要

- 県内市町村数・・・**34**(市11 町17 村6)
- 人口・・・約72万人(うち高知市34万人)
- 特徴(課題)・・・人口は全国に15年先行して自然減  
高齢化率の上昇は全国の10年先行  
「地域で若者が誇りと志を持って働ける高知県」の実現  
に向けて産業振興計画などの取組みを官民協働で推進



尾崎正直 知事

第Ⅰ期・第Ⅱ期  
(平成20～29年度)

## 土佐FBCとは

- 高知県(土佐MBA)の食料産業の中核を担う専門的人材及び食料産業の拡充に資する基礎人材の育成事業
- 土佐FBC(第Ⅰ期:平成20～24年度)  
文部科学省科学技術戦略推進事業  
「地域再生人材創出拠点の形成」
- 土佐FBCⅡ(第Ⅱ期:平成25～29年度)  
高知県寄附講座  
高知県、高知大学、県内自治体、  
銀行、JA等の協力により事業を継続  
(平成28年度～)



Brush up Program  
for professional



文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」

「食の6次産業化プロデューサー(食Pro.)」育成プログラム

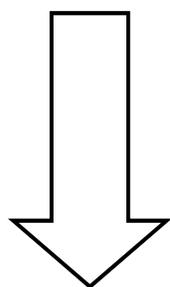
## 高知県の現状(H19)

第I期・第II期  
(平成20~29年度)

現状 ① 食料品出荷額等723億円  
(H19) (全国46位)

② 農業生産額963億円  
(全国31位)

③ 食品加工指数(①/②)0.75  
(全国46位)(全国平均2.94)



食品加工等に関する  
専門人材の不足

**食品の高付加価値化・  
中核人材の育成が必要**

都道府県別食料品加工指数		
1	大阪府	32.112
2	東京都	25.578
3	神奈川県	15.938
4	兵庫県	9.101
5	埼玉県	7.383
	...	
13	香川県	3.767
	...	
23	愛媛県	2.223
	...	
36	徳島県	1.298
	...	
43	青森県	1.132
44	熊本県	0.980
45	宮崎県	0.873
46	高知県	0.780
47	秋田県	0.664

平成23年度

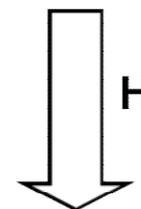
第I期・第II期  
(平成20~29年度)

## 高知県の食品産業人材育成の取り組み

H19年度 高知県食料産業クラスター協議会設立  
(農林水産省)

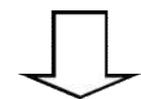


H20年度 高知大学 科学技術振興調整費  
南国市、香美市、香南市と連携



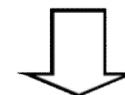
H22年度 高知県と連携

H20年度~  
高知大学土佐FBC人材創出事業

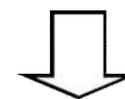


H25年度~  
高知大学土佐FBC  
人材創出事業II  
(高知県寄附講座)

H20年度 高知県産業振興計画  
(高知県策定)  
(産業振興計画検討委員会  
委員長:受田浩之)



H21年度~  
高知県食品産業の振興と人材育成



H25年度~  
高知県産業人材育成事業  
(土佐MBA)

土佐MBAの一環として実施  
「専門知識・技術編」

## 土佐FBCⅡミッションステートメント

～平成25年度から29年度～

### ①高知県の食料産業の中核を担う専門人材、及び、高知県の食品産業の裾野を広げる基礎人材の育成

- 1)食料産業の経営から開発までを担える人材の育成(養成に2年)【Aコース】
- 2)経営者感覚を身につけた農林水産業従事者の育成(養成に1年)【Bコース】
- 3)理系教育を受けていない食料産業従事者のスキルアップ(養成に1年)【Cコース】
- 4)5年間で、215名(43名/年)の人材を輩出
- 【年間目標】Aコース:5名、Bコース:8名、Cコース(企業研修コース、選択受講コースを含む) :15名

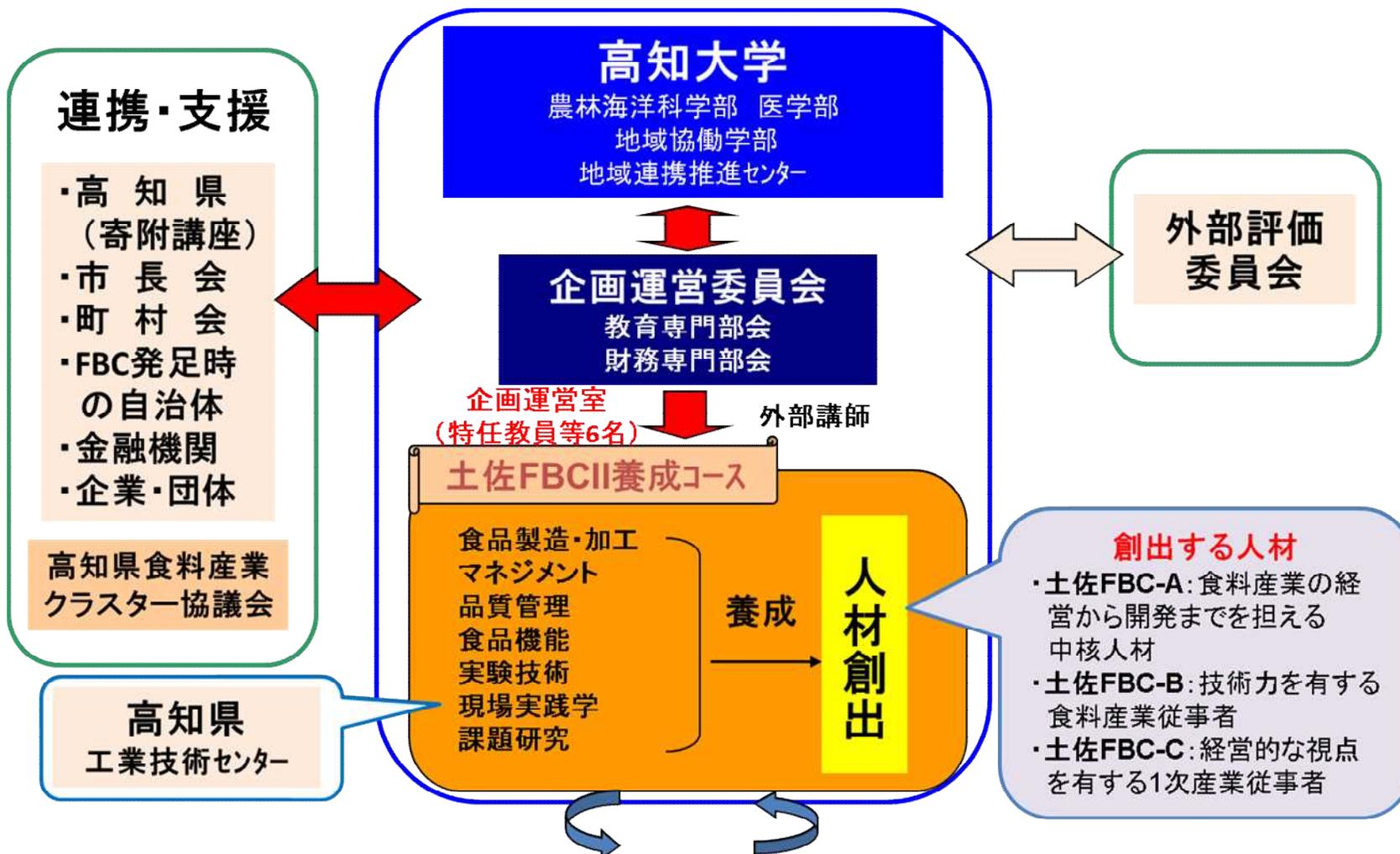
学外教室:15名

### ②育成した人材の二次的・三次的波及効果を担保する交流の場(プラットフォーム)の構築・強化・持続・発展

### ③修了生の高知県内への直接的・間接的経済効果として、FBCⅡ終了年度(平成29年度)において9.4億円/年を目指す。

## 土佐FBC II 実施体制と地域との連携

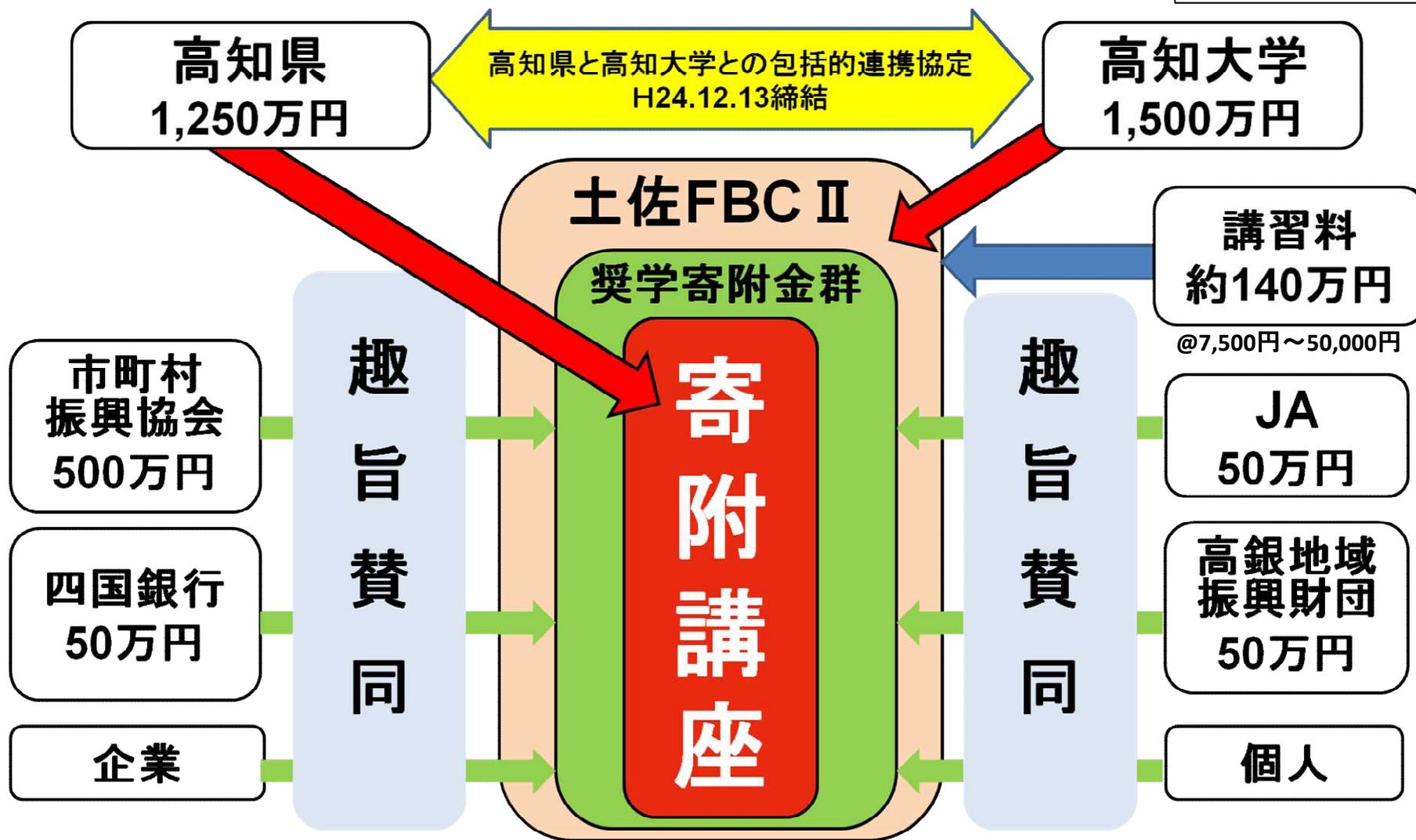
第I期・第II期  
(平成20~29年度)



JA職員 1次産業生産者 食品加工業従事者  
食品流通業従事者 自治体職員 地域の学生

第I期・第II期  
(平成20~29年度)

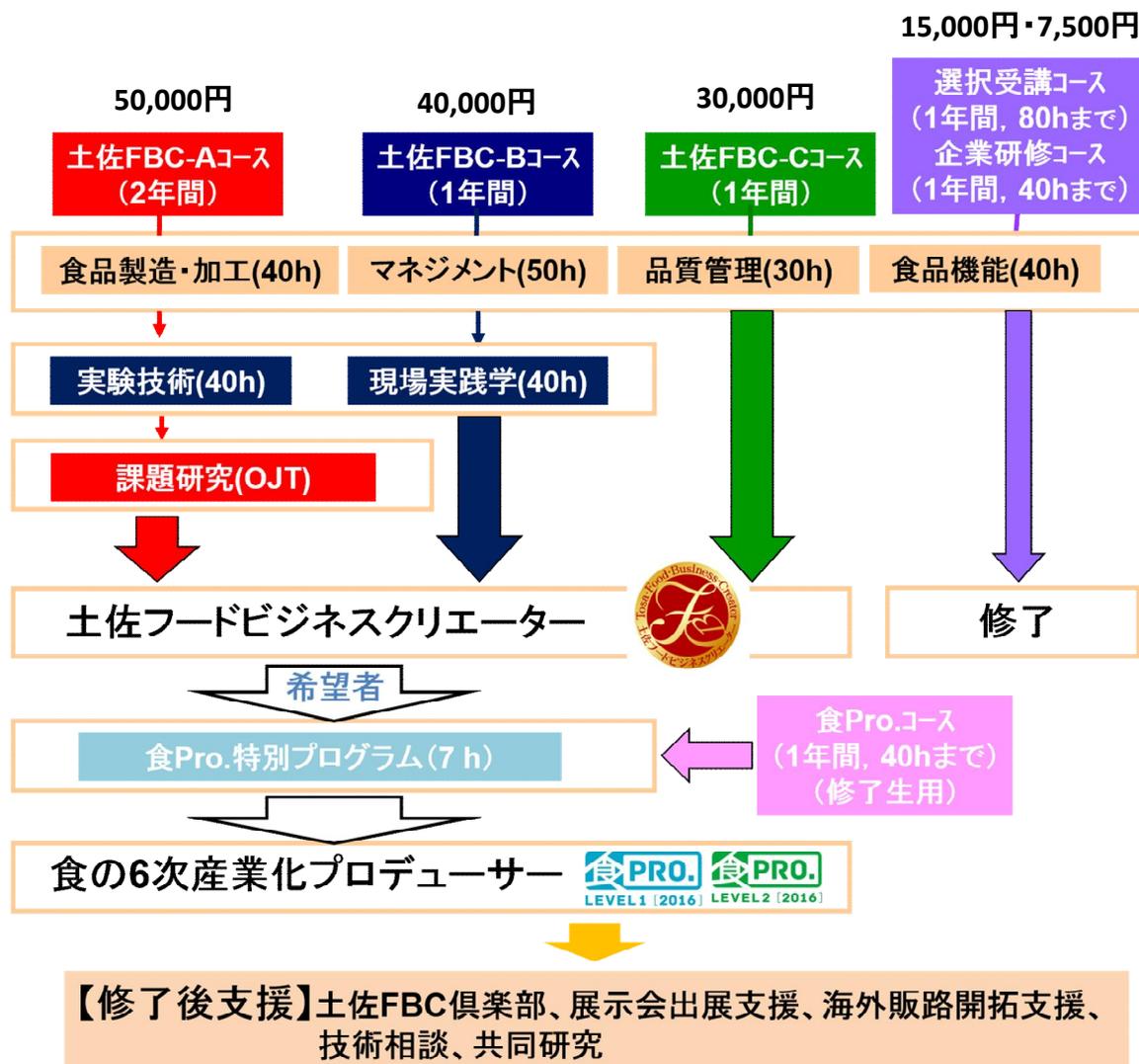
## 土佐FBC II 支援体制(H29年度)



平成29年度予算総額: 約3,500万円

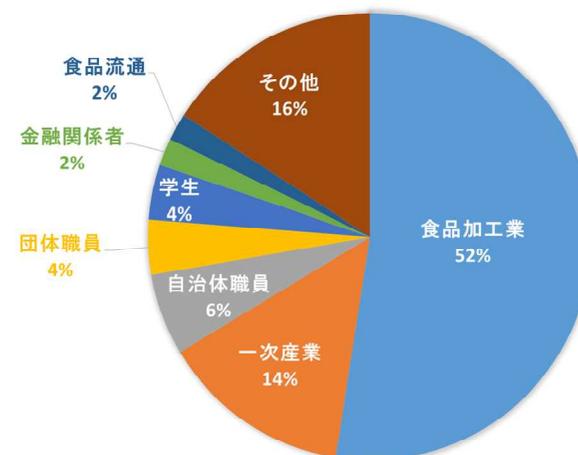
# 土佐FBC II プログラム ・ 受講生状況 (H29)

第 I 期・第 II 期  
(平成20~29年度)

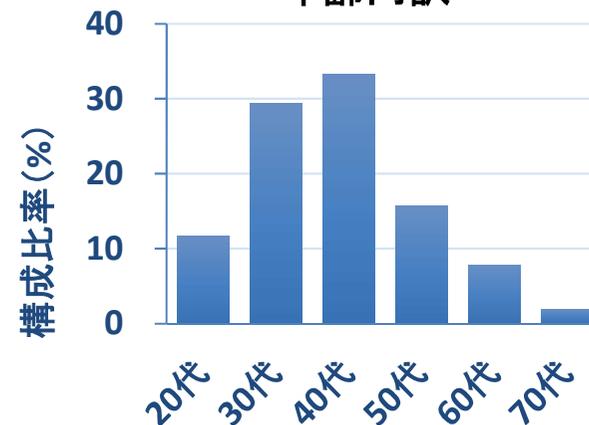


H29受講生51名 (女性比率40%)

業種別内訳



年齢内訳



## 土佐FBCⅡ 人材育成の流れ

第Ⅰ期・第Ⅱ期  
(平成20～29年度)

### 《受講生のFBC情報入手先》

(H29調べ)複数回答有

- ・土佐FBC修了生 ……53%
- ・土佐MBA、自治体職員 ……40%
- ・所属先企業等 ……18%
- ・成果発表会 ……13%
- ・ポスター・DM ……9%
- ・高知新聞 ……7%
- ・研究会、横断幕、その他 ……9%

- ・座学
  - ・実験技術
  - ・現場実践学
  - ・課題研究
- 補講用ビデオ教材  
質疑等随時受付  
土佐FBC倶楽部  
参加資格付与



### 修了式・成果発表会

- ・学長・知事連名による修了証書
- ・履修証明書の発行
- ・食Pro.修了書の発行(レベル1.2)
- ・複数自治体から  
受講料半額補助  
の支援制度設定



募集

選考

受講

発表

修了

### 《面接審査の実施》

- ・【書類・面接審査】を実施
- ・応募にあつては、所属長の推薦が必要(受講しやすい環境を受講生側からも担保)
- ・面接では、受講生の志望動機・事業案企画等の内容を踏まえ、受講コースが適正かどうかのマッチング等も判断。

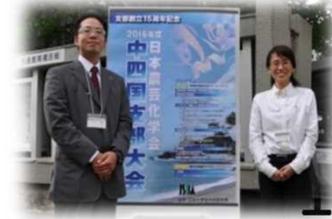


- ・Aコースは課題研究内容を複数の審査員で構成される修了審査会において発表

- ・その他、学会発表指導も実施。

### 《学会発表》

- 日本食品化学学会学術大会
- 日本農芸化学会中四国支部会



## 土佐FBCⅡ 課題研究(Aコース:目玉講座)

第Ⅰ期・第Ⅱ期  
(平成20～29年度)

### OJTで課題発見・課題解決能力を養う

- ・成分分析(地場産品の強みを明確に)
- ・商品開発
- ・品質管理
- ・マーケティング



#### 平成28年度テーマ一覧

ユズ搾汁残渣を用いた商品開発

海藻キリンサイの特性評価と加工品の開発

エディブルフラワーの品質管理

高知県産ハブ茶とキシマメ茶の食品化学的特性

常温流通可能なところてんの開発

面談

試験  
解析

論文・プレゼン  
審査

学会発表

- 共振振動分析装置を用いたメロン‘アールスメロン’の食べ頃判定および予測
- トマト新品種作出に有用なDNAマーカーの探索とその応用
- 高知県産ヤギ乳の食品化学的特性
- 高知県土佐山産有機生姜の食品化学的特性

## 土佐FBC I・II 修了者数

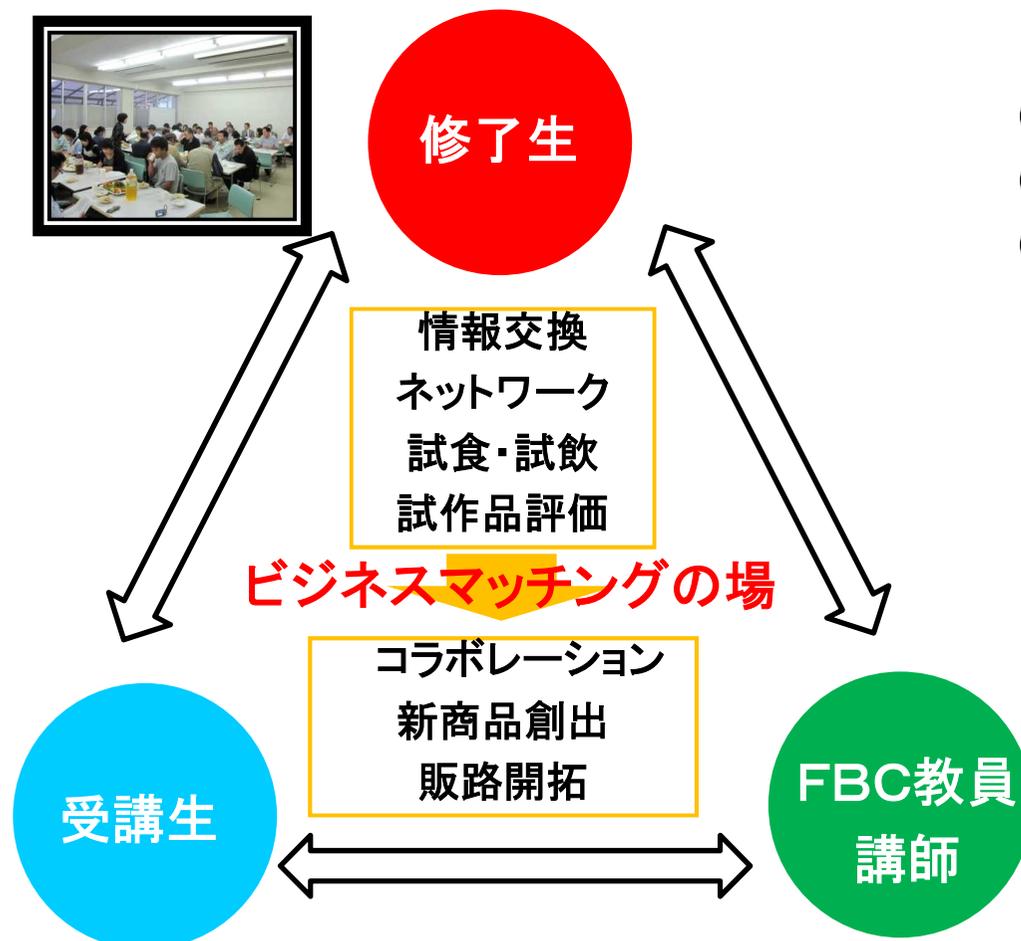
第I期・第II期  
(平成20~29年度)

コース	養成期間	修了者数			
		土佐FBC I (H25-28年)	土佐FBC II (H25-28年)	土佐FBC II (H29見込)	単年度 目標
A	2年 (240h+ 課題研究)	29名	24名	10名	5名
B	1年 (200h)	64名	37名	16名	8名
C	1年 (160h)	57名	37名	11名	15名
選択 企業 学外 食Pro.(H28~)	(80 h以内) (40 h以内) (40 h程度)	36名	141名	18名	15名
計		<b>425名</b>		<b>55名</b>	43名

## 修了後支援 土佐FBC倶楽部

第I期・第II期  
(平成20～29年度)

修了生ネットワークの継続的な維持・発展を  
目的としたOB会組織【3,000円/年の協力金で運営】  
3ヶ月に1回開催(セミナー+懇親会)



～修了生主体の運営へ～

- (1) 新商品開発部会(毎月一回定期会合)
- (2) 人材活用部会
- (3) 地域貢献部会

- 修了生データベースの構築
- 県内量販店等での店舗販売会の企画



## 修了後支援 土佐FBCグローバルプログラム

第I期・第II期  
(平成20~29年度)

COC+事業の一環として、土佐FBC修了生所属企業及び高知大学学生を対象とした  
食品の海外ビジネスを外国で実際に体験する研修プログラム

**企業:** JETRO高知の専門家とともに海外の展示商談会に出展を通して、  
海外販路開拓についてのノウハウを得られ、海外事業への展開のための端緒となる。  
**学生:** 出展に向けた協議から同席し自ら考えることを促されることで、高度な職場体験になる  
ことに加え、海外の視点も養われる。



### 事前研修会

- 香港市場と販路開拓
- 食品輸出実務基礎
- SWOT分析や4Pによる仮設とその検証方法
- 展示会出展に向けてのロールプレイ



### 海外研修

- 香港FOOD EXPO出展
- JETRO香港訪問など
- 現地小売店視察



### 報告会

- 研修報告
- 仮設の検証の結果
- 商品改良の提案など  
企業へのフィードバック

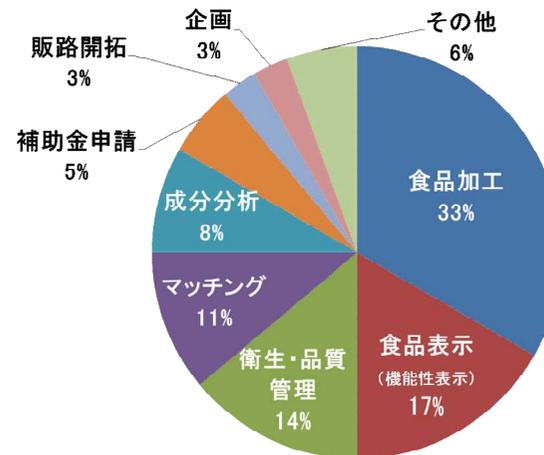
# 修了後支援 展示商談会への出展・技術相談

第I期・第II期  
(平成20~29年度)

## アグリフードEXPO(東京・大阪出展)



## 技術相談 H28年度:31件



## 共同研究

研究経費1,872千円(間接経費220千円)

### ●井上石灰工業

【課題】トマト品種‘スウィーティア’の育種  
高知県産ワインの分析・評価

【成果】学会発表  
研究室の立ち上げ、研究員の雇用



### ●馬路村農業協同組合

【課題】ユズの機能性評価



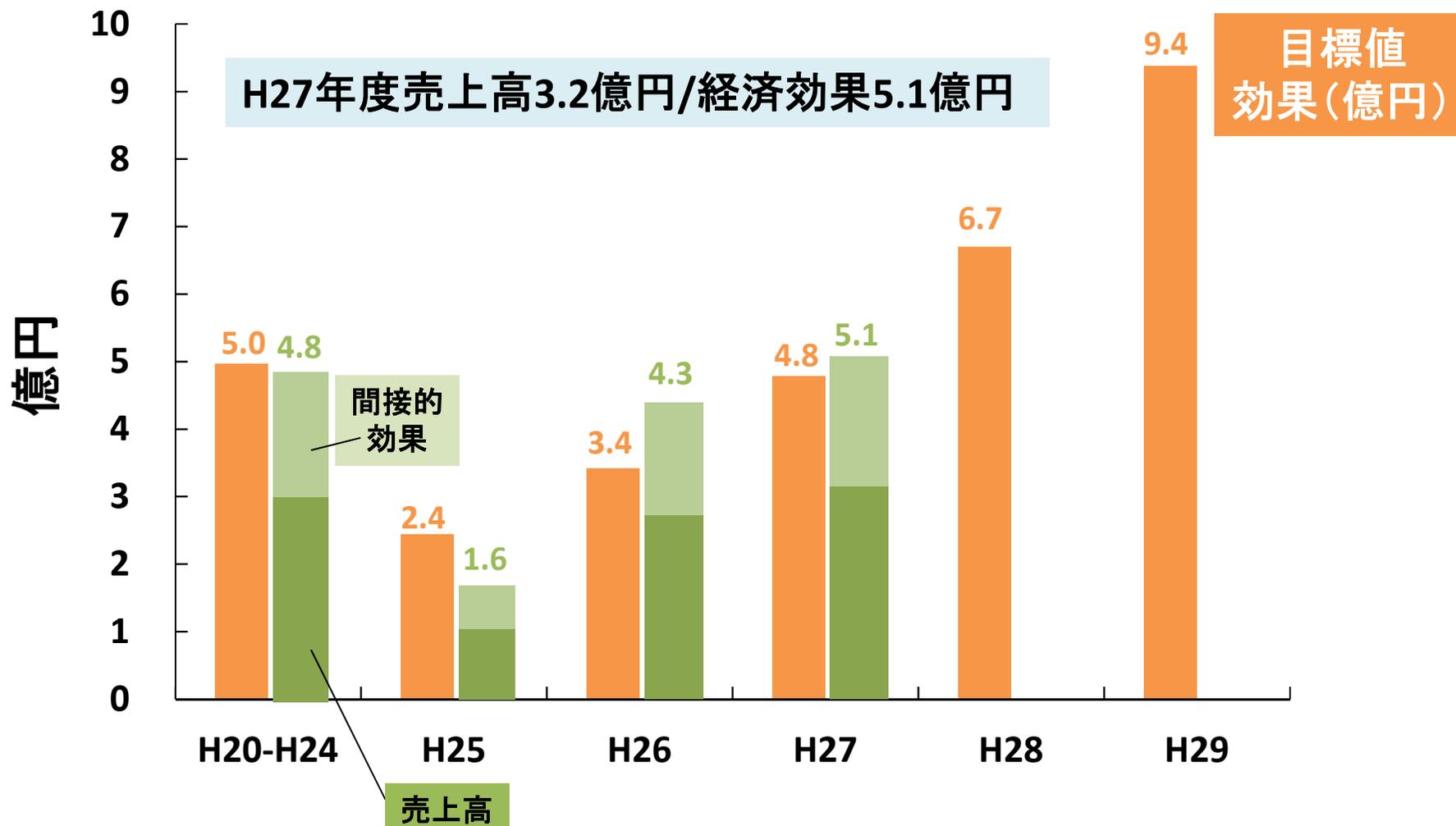
## 修了生の活躍状況

- ① 修了生(高知大学学生)の地域への定着率85%(H27年度まで)
- ② 修了生の土佐FBC講師への就任(9名)
- ③ 修了生の代表的な活躍状況

修了生	活 動
	量販店バイヤーとして土佐FBCを受講。高知県アンテナショップ「まるごと高知」の物販店長として出向、地域の食品事業者の商品開発や販路開拓にアドバイス。平成24年度土佐FBC講師。
	商品開発や販売促進に努め、2012年モンドセレクション金賞を受賞。さらに地域雇用も創出。平成25年度から土佐FBC倶楽部会長。
	自社の商品開発・品質管理・製造・販売のプロセスをマニュアル化を実現し、自社での社員研修をリード。
	JA南国市の職員として土佐FBCを受講。JA南国市出資の農業生産法人(株)南国スタイルを立ち上げ、地域農業の振興に貢献。平成25年度土佐FBC講師。
	土佐FBC課題研究を礎に数々の商品を開発。開発障害者就労施設として、高知県初の食品の安全に関する国際規格ISO22000の取得。
	土佐FBC課題研究(800時間実施)成果を全国規模の学会で発表。成果を活かして、商品開発。平成27年度地場産業大賞奨励賞受賞。

## 修了生による経済効果

第Ⅰ期・第Ⅱ期  
(平成20～29年度)



修了生アンケート結果より

H28年度までの成果

修了生※<sup>1</sup>

**425名**

※<sup>1</sup>H28年度までの修了生数

受講満足度※<sup>2</sup>

**96%**

※<sup>2</sup>H25-28受講生アンケート「ほぼ期待通り」以上の回答率

受講地域

**31/34**

市町村

※<sup>3</sup>修了生アンケート

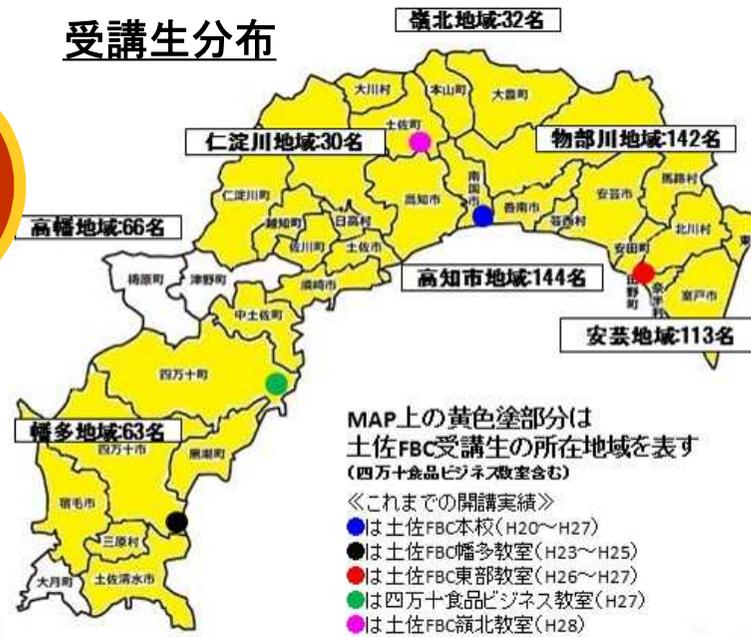
開発・改良商品※<sup>3</sup>

**80点**

H26年度経済波及効果※<sup>3</sup>

**5.4億**

受講生分布



第I期・第II期  
(平成20~29年度)



土佐FBCの機能

平成28年度トピックス

土佐FBC × 【教育】

- ・食の6次産業化プロデューサー(食Pro.)教育プログラム開講
- ・土佐FBCグローバルプログラムの実施(海外販路開拓)
- ・嶺北教室の開講



土佐FBC × 【研究】

- ・共同研究2件(馬路村活性化協議会、井上石灰工業)
- ・受講生・修了生の学会発表指導4件(日本食品化学会他)

土佐FBC × 【商品開発】

- ・課題研究・共同研究を通じ、7件の商品開発(ex.常温流通可能なところてん他)
- ・高知県全域より、27件の技術相談(ex.加工方法、品質管理他)

土佐FBC × 【他機関連携】

- ・高知県産業振興センターとの連携(食品加工機械装置に関する調査)
- ・高知県地産外商課との連携(土佐FBC倶楽部と連携)
- ・高知西高校スーパーグローバルハイスクール(SGH)との連携(講師派遣)
- ・株式会社フジとの連携(テストマーケティングの場)

土佐FBC × 【修了生・受講生】

- ・土佐FBC倶楽部3回開催(セミナー形式、リカレント学習の場)
- ・各部会の創設・企画運営(人材活用部会、地域貢献部会、商品開発部会)



土佐FBC × 【将来】

- ・土佐FBCⅢビジョン懇談会2回開催(ラウンドテーブル東京・ラウンドテーブル高知)

平成29年度トピックス

- ・学外教室(須崎地域)の開講
- ・土佐FBCⅡ成果シンポジウムの開催
- ・土佐FBCⅢ検討会の実施

# 土佐FBC評価・受賞

第I期・第II期  
(平成20～29年度)

## ◆文部科学省 事後評価S評価(最高評価)

総合評価	目標達成度	人材養成手法の 妥当性	実施体制・自治体 等との連携	人材養成ユニッ トの有効性	継続性・発展性の 見通し	中間評価の反映
<b>S</b>	<b>s</b>	<b>a</b>	<b>s</b>	<b>s</b>	<b>s</b>	<b>a</b>

## ◆イノベーションネットアワード2014 文部科学大臣賞 受賞

地域の中小企業による新事業および新産業創出などを促進し、地域産業の振興・活性化に優れた成果を上げている地域産業支援プログラムを表彰

主催：(一財)日本立地センター全国イノベーション推進機関ネットワーク

評価された点

- ・大学を中心とした幅広く実践的なネットワークの構築
- ・地域の資源を最大限生かした経済効果が認められる

→他地域でも大いに参考になる事例である



## ◆産学連携学会 業績賞 受賞 2015年度

他のモデルとなる先端的産学連携活動を行い、業績をあげた個人・団体を表彰するもの



## ◆日本食品保蔵科学会 ふるさと産業貢献賞 受賞 2017年度

地域産業の発展・活性化に対し、顕著な貢献又は今後貢献が期待される活動を行っている団体及び企業等を表彰するもの

## 高知県の現状

第Ⅲ期  
(平成30～34年度)

文部科学省科学技術・学術政策研究所「地域科学技術指標2016」

高知県全産業(企業)

■研究開発費:10.4億円(2013)

全国46位 全国平均2,700億円、四国平均165億円

■研究開発者数:53人(2014)

全国47位 全国平均10,326人、四国平均526人

企業の研究開発力が脆弱。イノベーション創出と持続可能なビジネスを構築するため、食品関連企業の研究・開発分野を強化する必要性。

⇒競争優位性をもたらす研究開発人材の育成

## 土佐FBCⅢミッションステートメント ～平成30年度から34年度～

第Ⅲ期  
(平成30～34年度)

### ①高知県食品産業に競争優位性をもたらす研究開発人材の育成

- 1) 食品産業の研究開発を担い、食品産業を成長に導く産業人材の育成  
Sコース・2年 6名[最大10名]/年)…30名/5年
- 2) 研究開発の基礎となる知識・技術力を有した食品産業従事者の育成  
BBコース・1年 22名[S進級6名、BBのみ16名]程度/年…80名/5年

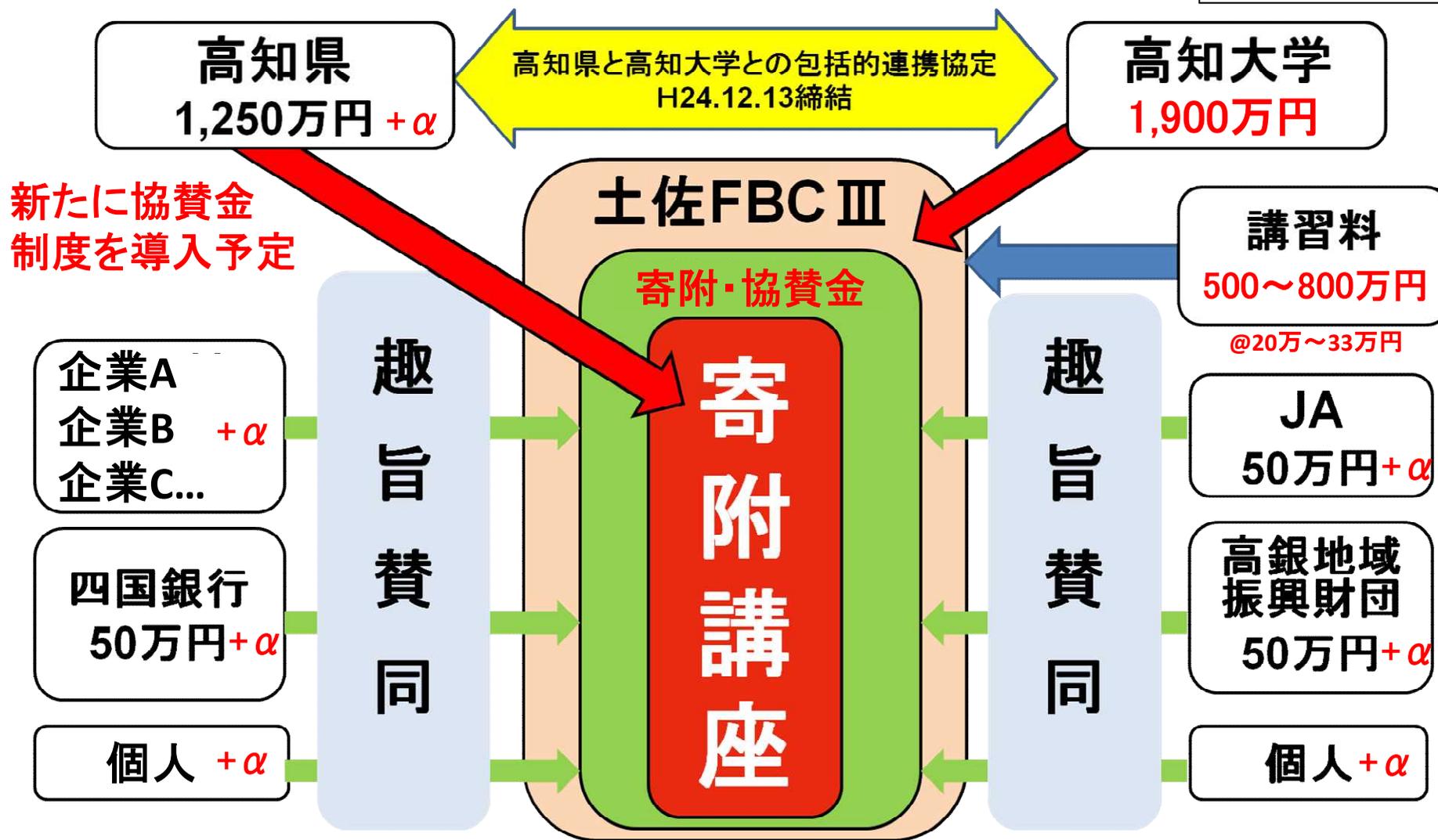
### ②企業の研究開発マインドを向上させる

- 1) 研究開発費の増加 (研究開発費を5倍増させる)
- 2) 研究開発室の新設 (研究開発室を5件新設させる)
- 3) 研究開発者数の増加 (研究開発者数を30名増やす)

### ③修了生の高知県内への直接的・間接的経済効果として、土佐FBCⅢ終了年度(平成34年度)において50億円/年を目指す

# 土佐FBCⅢ支援体制(H30年度)予定

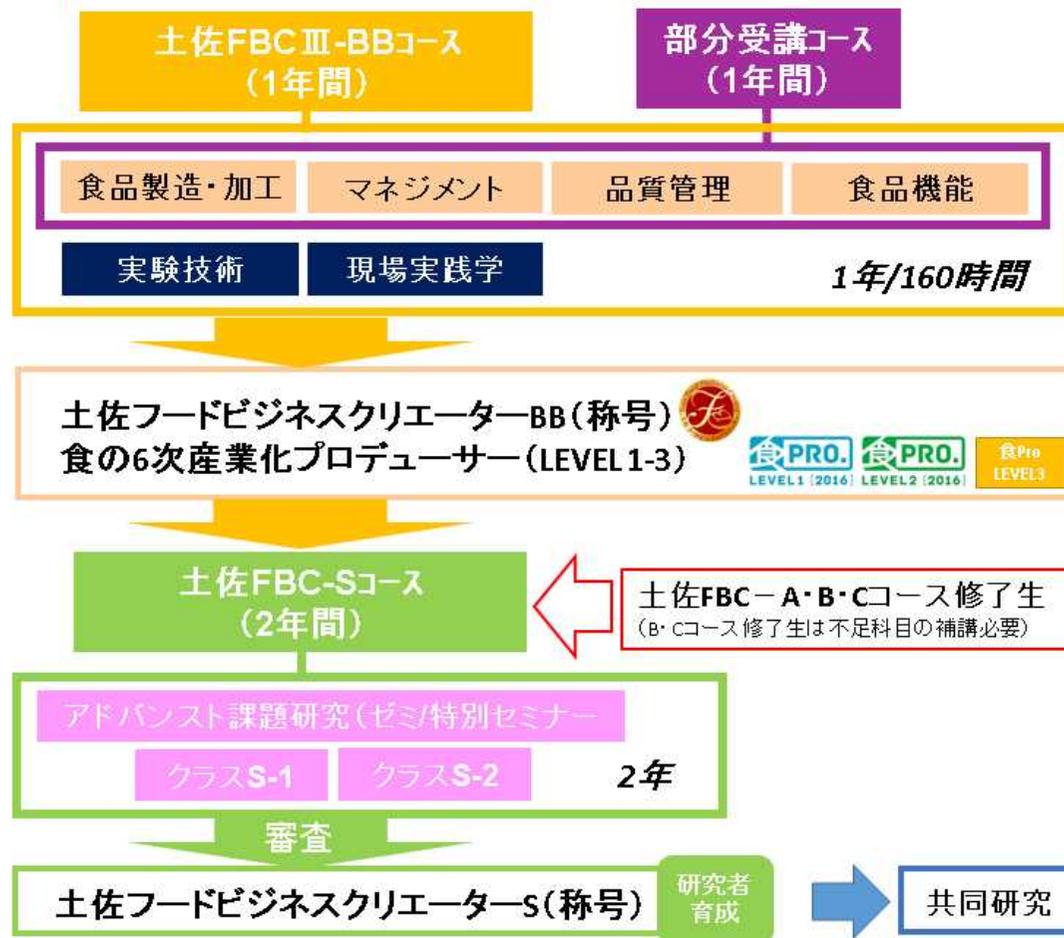
第三期  
(平成30~34年度)



平成30年度予算総額: 約5,000万円を目指す

# 土佐FBCⅢプログラム

第Ⅲ期  
(平成30～34年度)



大学の教育課程と同様、中央教育審議会大学分科会 大学教育部会ガイドライン (H28.3.31) に準じて教育ポリシーを設定

### 【大学の意義】

自己評価指針 (質保障) ・ スタッフ意識共有 ・ 大学院への接続

### 【受講生への意義】

教育内容理解 ・ 修了目標明確化 (主体的学び) ・ キャリアアップ促進

### 【社会への意義】

大学人材育成像の共有 ・ 社会との連携促進

### 【課程認定(一部申請中)】

- ・文部科学省職業実践力育成プログラム[BP]文部科学大臣認定プログラム
- ・食の6次産業化プロデューサー[食Pro.]レベル1.2.3\_認定プログラム
- ・厚生労働省専門実践教育訓練講座人材開発支援助成金対象プログラム

## 事業概要 (平成29年11月開講～2月)

### 地域づくり、組織づくりに特化した中核的な観光人材育成プログラム

- ・フィールドスタディを重視した先鋭的なカリキュラム
- ・観光を知り尽くした著名で多彩な講師陣
- ・数年以内に観光の事業化を希望する受講生対象

#### ■育成する能力

- ① マーケティング力、マネジメント力、実践力
- ② ファシリテーション力、チーム形成力
- ③ 情報収集分析力、企画力
- ④ 発信力、プレゼンテーション能力

#### ■特色あるカリキュラム

受講する上で必要な知識・  
経験を面接で確認

- ・開講式、基調講演(0.5日)
- ・ディスカッション(0.5日)
- ・観光マネジメント学習(2日)
- ・観光マーケティング学習(2日)
- ・ケースメソッド(2日)
- ・観光プロジェクト企画実習(7～14日(現地学習))
- ・修了審査会(プレゼン発表)(1日)
- ・閉講式(1日)

## こうち観光カレッジパンフレット

**地(知)の拠点** まちひとしごと創生 高知イノベーションシステム 平成29年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

**こうち観光カレッジ開講記念 基調講演**  
**高知が選ばれ続けるために必要なこと**

**講師：山田桂一郎 氏**  
 JTIC SWISS 代表 著書：瀬谷 浩介 氏と共著「観光立国の正体 (新潮新書)」

世界のトップレベルの観光ノウハウを各地に広めるカリスマ、山田桂一郎氏を講師に迎え、高知の観光が選ばれ続けるために必要なことを語っていただきます。

2005年に観光カリスマ(内閣府・国土交通省(観光庁)・農林水産省 認定)、「世界のトップレベルの観光ノウハウを各地に広めるカリスマ」として、これまでのヨーロッパを中心とした環境保全と世界各地における滞在プログラム・ツアーの実施と観光・集客交流の事業化、マーケティングの経験を活かし、観光・地域振興(特に)に関する講演やセミナーの講師として全国各地から招聘されている。また、日本国内でも地域振興のコンサルタントとして様々な事業化を進め、多方面で積極的に事業活動を展開し、多くの実質的な成果を残す。民間企業やNPO法人の他にも多くの省庁や地方自治体の委員、プロデューサー、コーディネーター、アドバイザーを務め、大学や高等教育機関でも教鞭をとっている。近年は観光庁「訪日観光セミナー」講師、ミシュラン・グリーンガイドの取材コーディネイトも行う。2011年には週刊日経ビジネス誌において「次代を創る100人」の一人として選出された。  
 欧州では、ヨーロッパ・アルプス並びにスイス全土に渡る取材・撮影のコーディネーター、ライター、ビデオカメラマン、通訳としても活動。冬は、現地で唯一の日本人スキー教師、夏は、ハイキング、トレッキングガイドでもある。  
 スポーツに関しては、山以外でもセーリング(ヨット)競技の元国体選手であり、パラグライダーで空も飛び、陸海空の全てをフィールドとしている。

**11/14 火** 時間: 13:30~14:30 会場: 高知大学朝倉キャンパスメディアの森6F

基調講演は一般参加可能です。開講式およびディスカッションはこうち観光カレッジ受講生対象となります。

**こうち観光カレッジ受講生 募集中!** **受講無料 応募締切 11月2日(木)**

お問い合わせ先 国立大学法人 高知大学 地域連携推進センター  
 〒780-8073 高知市朝倉本町2-17-47 TEL.088-844-8293 E-Mail. kt10@kochi-u.ac.jp

**こうち観光カレッジ受講生 募集中!**  
 こんな方に! **観光施設で働いている方** **自治体の観光担当の方** **地域の観光資源を磨きたい方**  
**観光地域づくりを学びたい方** **観光ビジネスで成功したい方**

**こうち観光カレッジとは?**  
 こうち観光カレッジは地域づくり、組織づくりの観点に特化した、中核的な観光人材を育成するプログラムです。地域の観光まちづくりを主体的に推進していく能力を育成します。

**1. マーケティング力・マネジメント力・実践力**  
**2. ファシリテーション力・チーム形成力**  
**3. 情報収集分析力・企画力**  
**4. 発信力・プレゼンテーション能力**

**先進事例体験 フィールドスタディ**  
**観光マネジメント・観光マーケティング講座**  
**フィールドスタディ**  
 受講生のニーズに合わせて自社外へのフィールドスタディを設定する機会はありません。現場実践に重きを置き、新たな視点を得る機会となります。

**受講から修了までのイメージ**  
 観光地域づくりの最上級を知るためのフィールドスタディにより、国内外のトレンドの実践的理解と対応を習得します。

**カリキュラム** 11月14日~2月頃まで

0.5	開講式・基調講演
0.5	ディスカッション
2	観光マネジメント学習 「観光地域づくり体制構築・DMO/DMC」「ファシリテーション・リーダーシップ」「観光地域デザイン」
2	観光マーケティング学習 「地域学」「観光地域ブランディング」「インバンド」
2	ケースメソッド
7~14	観光プロジェクト企画実習
1	修了審査会(プレゼン発表)
1	修了式

修了 観光地域づくり人材として修了認定、実践者として活動するとともに修了生ネットワークを構築

<こうち観光カレッジ応募資格> 数年以内に実施したい企画があること・カリキュラムの3分の2以上に出席可能な方(その他推薦される資格)・マネジメントやマーケティング、会計・財務、データ分析に基づく戦略検討などの基礎知識がある・土佐MBA、土佐の観光創生塾、地方創生カレッジ等の受講生

**お申込方法** 受講申請書と事業企画案をご提出いただけます。詳しくは下記へお問い合わせください。

高知大学 国立大学法人 高知大学 地域連携推進センター  
 〒780-8073 高知市朝倉本町2-17-47 TEL.088-844-8293 E-Mail. kt10@kochi-u.ac.jp

**応募締切 11月2日(木)**

# 高知大学出前公開講座

## 事業概要

- ✓ 大学等による公開講座の大半は大学キャンパス内や人口密集地での実施
- ✓ 移動に困難を抱える人・地域への生涯学習ニーズを十分に満たせない



生涯学習ニーズのある地域に講師(学生)をお届けする

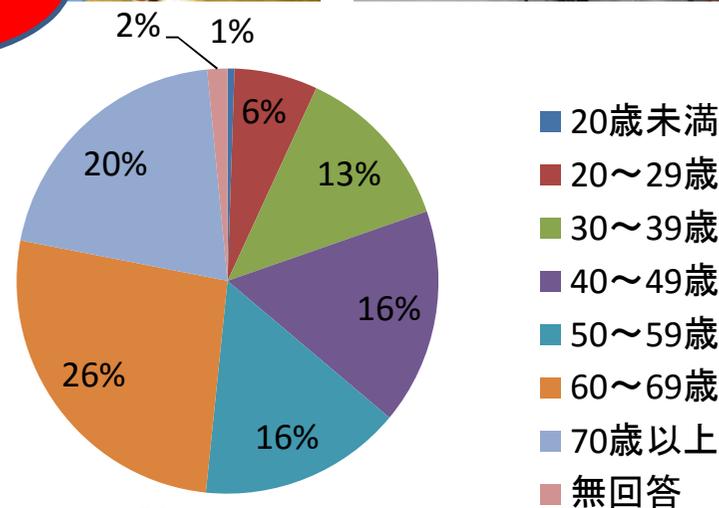
H29年度は県内11市町村へ  
“出前公開講座”



ここを「大学連携型CCRC(生涯活躍のまち)構想」へ発展!



- 平成21年度からの受講延べ人数2,900名
- 受講者の過半数が50代以上(右図)



受講者の年齢構成

- 地元役場・教育委員会との連携により開講  
(大学)地域の生涯学習ニーズの詳細を役場等職員から事前にヒアリング、対応可能な教員を講師として派遣  
(役場)広報紙、地域内放送等により住民への広報を担う

- 講座テーマ例: 自治体総合戦略の住民理解、地震・防災、健康・子育て支援、学生によるサッカー/バレーボール教室等

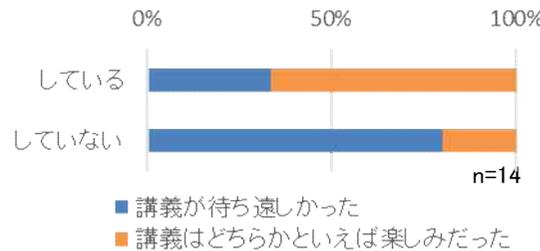
## サ高住における講座の実施(H27.7~)

- ✓ 「出前公開講座」の参加者は地域の50代以上の参加者が多い  
→さらに上の世代、例えばサービス付き高齢者住宅(サ高住)入居者に「学び」のニーズはあるか？

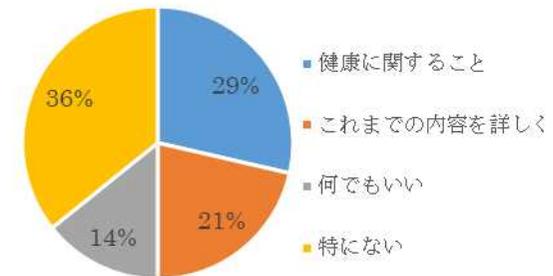
⇒「大学連携型CCRCにおいて生涯を通じた生きがいづくりへの参画が可能か」



勉強や習い事、ボランティアなどの活動をしているか

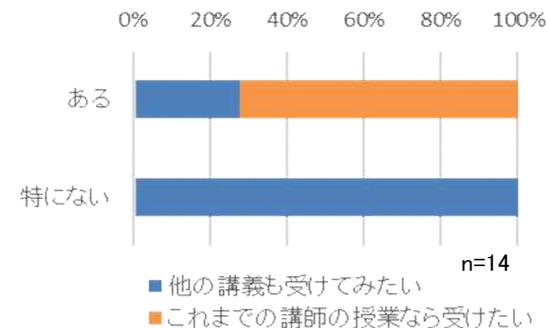


他にどんな授業を受けたいか



(受けたい授業)  
健康食品・サプリメント・野菜・目について・お茶etc

生きがいはあるか



- ◆実施回数 17回
- ◆受講者数 のべ237名
- ◆平均年齢 85歳以上
- ◆最高齢 95歳

- ◆講座テーマ 「食と健康」「糖尿病と食品」「カツオ」「碁石茶」 etc...

ご清聴ありがとうございました。



ジオラマ(高知大学朝倉キャンパス)